

立川断層講演会報告

「正しく知って、備えて安心—立川断層とともに安心して暮らすコツがわかります—」というサブタイトルを付けて、1400 余名収容の大ホールで開催しました<別添資料 1 >。

開催概要は、以下の通りです。

- ・日時：平成 24 年 1 月 27 日（金）18:00-20:30（開場 17:00）
- ・会場：立川市市民会館大ホール（定員：1452 名）
- ・主催：日本活断層学会・立川市

・演題・講師

◎開会あいさつ：立川市長

- ①立川断層はどこを通る？何が起こる？：首都大学東京 山崎晴雄教授（写真 5）
- ②立川断層を掘って調べた地震の切迫度：産業技術総合研究所 宮下由香里主任研究員（写真 6）
- ③活断層とともに暮らす知恵：三浦半島活断層調査会 浅見茂雄顧問（写真 7）
- ④東日本大震災後の今、言えること：活断層学会長・地震予知連会長 島崎邦彦（写真 8）

◎閉会の挨拶：島崎会長

- ・講演会翌日の断層見学会の説明と参加希望者申込受付：吾妻崇活断層百選副委員長
- ・入場料：無料（申し込み不要）
- ・配布資料（A4 カラー12 頁）：無料，2500 部（参加者からの強い要望に応じて 1000 部増し刷り）
- ・参加者：約 1600 名，NHK，TV 朝日，TBS，読売放送，地元ケーブルテレビ等報道機関多数
- ・ポスター展示：立川断層に関して，国土地理院の都市圏活断層図：青梅・八王子，ならびに，国際航業による高精度段彩図（DEM）のパネル展示。三浦半島活断層調査会の日頃の活動内容のポスター紹介。

開場に先立ち参加者の長い列ができ（写真 1），大ホールはたちまち満員になり（写真 3；写真はすべて石辺会員提供），準備した 1500 部の講演資料は開演前に全てなくなりました。ホール外のロビーではテレビモニターによる同時中継がなされ，大きな人垣ができました。受付ホールではポスター展示を行いました（写真 4）。講演会アンケートを配布し 368 枚回収できました。集計結果を<別添資料 2 >に示します。



写真1 開演2時間前の状況



写真2 開場（開演1時間前）



写真3 満席の大ホール



写真4 ポスター会場



写真5 山崎晴雄様講演



写真6 宮下由香里様講演



写真7 浅見茂雄様講演



写真8 島崎邦彦会長講演

写真はすべて、石辺岳男会員撮影

正しく知って

備えて安心

立川断層講演会

- 立川断層はどこを通る？何が起こる？
- 立川断層を掘って調べた地震の切迫度
- 活断層とともに暮らす知恵
- 東日本大震災後の今、言えることなど、
活断層の研究者がお話しします

日時 平成24年1月27日 (金)
開場17時 開演18時 終演20時30分 (予定)
場所 立川市市民会館 (アミュー立川)

*会場までは公共交通機関を御利用ください

定員1452人 (事前申し込み不要、先着順) 入場無料

講師

- 山崎 晴雄 (首都大学東京教授)
- 宮下由香里 (産業技術総合研究所主任研究員)
- 浅見 茂雄 (三浦半島活断層調査会顧問)
- 島崎 邦彦 (東京大学名誉教授・日本活断層学会会長・
地震予知連絡会会長)

主催 日本活断層学会・立川市

問い合わせ 立川市市民生活防災課 電話：042-523-2111 (内線：2531)

立川断層分布図
 関口ほか(1996):国土地理院都市圏
 活断層図「青輪」による

この図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものの
(承認番号 国地企画第312号平成24年1月)

段彩地形図
 国際航業(株)提供
 地面の起伏が示す立川断層
 左上(西)から右下(東)へゆるやかに下る
 数段の台地面を断ち切るように立川断層
 が上下(北西-南東方向)に走り、台地の右
 側を隆起(左側を沈降)させている

立川断層分布図
 箱根ヶ崎地区のトレンチ位置は、宮下ほか(2007)による

段彩地形図

立川断層分布図

合計368

1	今回の講演会の開催をどのような方法でお知りになりましたか	広報「たちかわ」から	知人から	市のホームページから	学会のホームページから
		244	39	20	6

2	立川断層について興味を持たれたのはいつごろからですか	阪神大震災の前から	東日本大震災の前から	東日本大震災の後から
		126	113	107

3	講演会の聴講目的	断層がどこにあるのか	いつ地震が起きるのか	揺れの大きさ	地震への備え
		251	240	202	208

4	講演内容を理解できましたか	非常に良かったです	かなりできました	ほぼできました	あまりできなかった	ほとんどできなかった
		64	106	115	20	1

5	講演の開始時間/開催曜日について	適当	もっと早い方がよい	土曜日がよい	日曜日がよい
		215	93	59	20

6	立川断層についてもっと知りたいことがあります	はい	いいえ
		177	80

7	今後、活断層に関するシンポジウムや見学会があれば案内がほしい	はい	どちらでもよい	いいえ
		231	72	26

	5件以上あったもの	2~5件	1件	1件
1ーその他 (講演を知ったきっかけ)	・自治会(町内会)の回覧版	・立川市歯科医師会から ・新聞、テレビ、マイテレビ ・チラシ	・市役所 ・学習館のポラ ・学会員、家族からの紹介 ・twitter ・AIMで行われた立川断層セミナーにて ・アミュー立川での案内	
2ーその他 (立川断層を知った時期)	・阪神大震災後から		・5年前、10年前、13年前、15年前、17年前、20年前、40年前、1970年代から etc. ・断層の真上のマンションに住んでから ・情報発信のための正しい情報入手 ・断層と大地震発生の可能性の程度との関係 ・直下型地震について ・揺れの方向(東西南北)	・高校地学での指導に生かしたい ・国と都の発表のくい違いの解説が聞けると期待した ・行政としての啓発等の参考研究として ・3.11の影響度
3ーその他 (聴講の目的)		・立川断層そのものについて	・あまり専門的になると理解不能 ・忘れてしまうことも多いので、講演集	・前半は、説明図がわかりにくい(素人向けでない) ・痛りのバスの時間を考慮して早くしてほしい ・子供がいるので早い時間の方がよい ・もう少し遅い方がよい
4ーその他 (内容について)			・15:00-17:00、13:00-16:00 etc. ・平日であれば、19:00開始が理想的 ・昼夜の2部構成希望	
5ーその他 (開催曜日・時間)				
6ー知りたい情報	・断層の詳細な図、拡大図、住宅地図に明記 ・断層の詳細な位置、様子 町名表示もほしい	・断層上と周辺の被害の程度、被害範囲 ・立川断層が動くことによる建物に対する評価 ・活断層そのものの見学、現地確認 ・今後の調査結果(具体的に)、情報の精度向上 ・地震の起きた年代(発生時期)、強さ ・広報(市報)に載せてほしい	<対策等> ・立川市でグループを作るのかどうか ・多摩モレールの被害について ・起こった際の対処のマニュアルの開示 ・断層上にある住宅の危険対策 ・具体的、シンプルな知識と防災方法、準備する物 ・見学会を他の日にやってほしい	・活動周期 ・横ずれと逆断層のどちらなのか ・地震時の揺れ型(縦揺れ?横揺れ?) ・枝分かれ断層の見方 ・今の見解で、どの程度の地震がいつ起こるかの確率 ・なぜ「立川」という名称がついている
7ーその他				

「質問など記入欄」にたくさんのご質問やご感想をいただきました。その一部を掲載いたします。

- 市民による市民のための「生存・事業継続」を目的とした質疑応答の交流の場の設定を計画中です。特に、子どもと高齢者の自助・自立の支援をすべきと考えています。参考情報をお知らせください。
- 防災から減災への第一歩は、危険を感じる心と考えています。そのための正しい情報の共有の場が必要だと考え、行動を起こします。
- 多摩川左岸沿いに、北は残堀川から柴崎体育館北を通り、羽衣町斎場に貫る崖がある。地震に絡む断層ではないのでしょうか？
- 地震発災時より 3 日後位までの時間を追っての各家庭での対処方法について、必要な行動と、それに要する備品・用具等を、実際に役立つように分かり易く講演してほしい。さらに、隣近所、及地域の人達との協力は、どのようにしたら具体的にその場で役立つのか？老人の独居家屋が多い裏路地の地域の援助・救助の方法等教えてほしい。ペットを飼っている場合どのようにしたらよいか？火災が心配です。各家に消火器を設置するよう行政の指導がほしい。
- 各自で備える「自助」がまず大切かと思うので、どう備えるかを市民にくり返し知らせていくことも必要かと考えます。そして、「共助」するためにどうつながっていくか、これも大切です。
- 首都直下型地震と立川断層との関係を教えてください。立川断層は 30 年間に 0.5～2%と云われていますが、直下型が 4 年間に 70%と云われていますがこちらの方が問題と思いますが。
- ・荒川断層については評価が上がっていない。荒川は横ずれではないのか。
 - ・立川断層が横ずれである可能性はどのくらいか。立川断層が実は、多摩川を超えて百合ヶ丘まで続いているという説があるが。
 - ・立川断層で起きる地震は浅いのか
 - ・日本全土で安全な所はどこか？（原発問題も含む）
- 本日の講演を聞いて、少し地震（立川断層）への不安がとれました。これからもっと立川断層や地震についてのことを理解し、不安をとりのぞいていけたらよいと思いますので、又このような講演を多く開催してください。
- 首都直下の地震も発表されていますので、地震やその防災へのそなえの為にも市民がより地震や防災についてより関心を多くもつ人がふえるように、市民活動として三浦半島で活断層を市民調査されている方々のように、立川でも市民活動をして市民どうし協力して減災できるような活動をおこしていったらよいと思います。
- 最終活動時期、再来間隔等について、講師によって見解が異なり、それぞれの根拠は理解できました。が、見解の相違をいかに消化納得すれば良いか悩むところです。シンポ

ジウム等討議の形式を取り入れられても良かったのかな、と思いました。

- 狭義の立川断層 21km の活動は、全面に渡って同時に活動するものなのか？それとも、部分的に起ることもあるのか？
- 首都直下型地震といわれていますが、立川断層が動いてもこの地震になるのですか？
- 多摩地域の地下の堆積物の中で、活断層のずれやたわみがどのような状況で現われるのか？また、活断層によるずれなのか、河川的作用によるずれ（削られた跡）なのかの区別はどのように判断するのか？一般的な判断のしかたで結構です。教えていただければ幸いです。
- 「逆断層」とは何かの説明があった方が良かったと思います。あたりまえの様に使われていましたが、周りにいた方で分らない方がいたようです。
- 断層の上が特に被害が大きい訳ではないとのことですが、断層による地盤の隆起があるので、建物が大きく破損する恐れが十分あると思う。断層から離れているところの被害も大きいかも知れないが、断層上は致命的なダメージだと思う。そんな場所に市役所や防災センターを作ったのはやはり問題なのではないか。
- 自分達の足で歩いて断層を確認したいです。
- 立川に住んでいます。立川では関東大震災で家屋の被害がなかったそうです。関東ローム層のおかげだそうです。それが立川断層によりM8クラスの地震があった場合、その被害の程度はどうでしょうか？ また、最近首都直下型の地震のニュースが報道されていますが、立川市はどの程度の被害があるのでしょうか。
- 官・民・財連携による防災対策を実現できればと考えます。地理的に大事な場所でもあるので、これらに関する情報が欲しいです。
- 実際に地震が起きたときの対応(具体的)と、火災に対する備え。立川断層以外に起こる地震の地域と強さについて（東海、東南海、南海）など。予知のレベルについて（立川断層を含めて東海、東南海、南海など）知りたい。
- 「いつ起こるか分からない・・・」という中で残念に思ったことは、講演の始まる前のお話の中で、万が一の時の避難経路をまず説明して頂きたかったです。参加者もとても多く通路に人が座り込んでいた状況で、配慮が足りなかったと思います。
- 土地が借りられなくてトレンチできないというような問題は都とか国の力で何とか出来るのでは・・・と思いました。
- 地震計によって得られる波の振幅は、東西南北に方向性をもっているのでしょうか？地震は特別な方向性をもたない球面波と考えるべきでしょうか？P波は疎密波ゆえある程度理解できますが、S波はどうもよく理解できません。
- 東北大震災の地震の立川断層への影響は？ 立川断層周辺の地盤の変動はどうなっているか？ 水平方向だけでなく、水準点の上下移動も知りたいと思っています。
- こんなに大勢の参加者がいる事におどろきました。原発災害と地震のことなど、違う切り口の講演会を期待しています

- 神戸、仙台等の都市部の具体的被害。建築物の種類により区分してどういう被害が出たのですか？事例があるはずなので、もっと公表して欲しかったです。一説では、公団住宅は全・半壊とか皆無と聞き、驚いています。
- 三浦半島の活断層の話が興味深かった。立川などより大変な処に住んでいらっしゃるのだなあと思いました。
- 三浦半島の調査会のような活動の立ち上げを立川市は考えないのか。市民への意識付け向上のための活動を計画していないのか。市役所職員への教育がされていると思うが、それを市民全体へ知らせめかつ教育する計画はないのか？
- ガードレールにみられるうねりは、短期間にできるものなのか
- 立川断層は府中のあたりで終わっているのでしょうか？さらに南東方向にのびている可能性はどうなのでしょう？33kmより長くなるとマグニチュードが大きくなるということで、心配です。断層の北東側が隆起するというお話でしたが、被害は相対的に北東側が大きくなるのでしょうか？
- これから断層についてもっと判明することが出てくると思うが、その都度このような会を開催してほしい。
- 多摩都市モノレールに勤務しています。お客様の何よりの安全、安心を第一に考えています。今からできることを少しずつ実践していこうと思っています。家族、職場にも伝えたいです。
- 本日の会場で頂いた冊子が非常に参考になりました。立川断層帯から5~600mに戸建木造住宅に居ますので市の援助事項を利用する方向で進めます。
- 地震被害を最小限にするための具体策例を数多く示す方策を検討されたい。
- 防災から減災へ、大切な物を守っていきたいと思います。
- 市長から防災ハンドブックのお話がありました。有料でもよいので、近隣の市にも欲しいと思いました（昭島市在住）。参考までに、現在国道16号の拡張工事を拝島駅近くから小荷田信号までの1~2kmの間やっております。工事中は2~3km位掘ったところもあり（下水道の本官を埋める為）、地層がよく見えました。もう少し早く知っていれば、写真に撮ったり、よく観察したりするのに残念です。拝島駅南口は急なガケが多いのですが、気になってきました。
- ひとまず、地層が堅固であると知り、安心しました。しかし、二次・三次災害に備える事が要件と思いました。私は砂川地区に居住しておりますが、新興住宅地になってはおりますが、なかなか古くからの「何か」が邪魔して、新しいコミュニケーション活動を築く事が難しく、復興の妨げになってしまうのではないかと危惧しています。絆が何かとさげられるようになって、コミュニケーションを築く事の大切さを痛感するにつけ、なんとかせねば、したいなあと思うようになりました。
- 断層近くには、役所、病院と重要な公共施設等がありますが、大丈夫なのでしょうか？
- 活断層現地見学会を何回か開催して欲しい

- 専門的でも、わかりやすい話で興味深く拝聴致しました。立川断層の概略がわかり、今後、どう向き合うかの先が見えたようで安心しました。
- 何回か開催していただき、より多くの人にわからせていただきたい。まだまだ知りたい人が多いと思います。火災にも注意、準備が必要、等々、道路（ロジ）の整備にも力を入れてください。
- 7,300 年前とか、13,000 年前とかいってもピンときません。結局はいつ地震が起きるかはわからない事なのですか？被害を以下に少なくするか、災害の後どうするか。それを市としてしっかりと考えて、私達に正しい情報を早く伝達できる様お願いします。自分の守りきるものは何か、考えてみます。

[テキストを入力]

[テキストを入力]

実施日：2012年1月27日

立川断層講演会 アンケート用紙

日本活断層学会 普及教育委員会

該当する回答の下の枠内に○を書き込んでください。「その他」に関連する意見等があればご記入ください。

(会員か非会員か該当する方に○を付けてください： 会員 ・非会員)

1	今回の講演会の開催をどのような方法でお知りになりましたか	広報「たちかわ」から	知人から	市のホームページから	学会ホームページから	その他
2	立川断層について興味を持たれたのはいつごろからですか	阪神大震災の前から	東日本大震災の前から	東日本大震災のあと		その他：
3	講演会の聴講目的。(複数回答可)	断層がどこにあるのか	いつ地震が起きるのか	揺れの大きさ	地震への備え	その他
4	講演内容を理解できましたか	非常に良かったです	かなりできました	ほぼできました	あまりできなかった	ほとんどできなかった その他：
5	講演の開始時間/開催曜日について	適当	もっと早い方がよい	土曜日がよい	日曜日がよい	
6	立川断層についてもっと知りたいことがありますか	はい	いいえ	知りたい情報/講演内容をお書きください。		
7	今後、活断層に関するシンポジウムや見学会があれば案内がほしいですか	はい	どちらでもよい	いいえ	特別に案内がほしい方は連絡先を下の欄にご記入ください。	

連絡先メールアドレス：(講演会・見学会のお知らせをする場合以外には使用いたしません)

@

氏名：

ご質問など記入欄 (今後の講演会の内容を考える際の参考とさせていただきます。恐縮ですが個別のご質問には回答できませんが、多くの方から共通していただいた質問については日本活断層学会ホームページで回答する予定です。また、特に利害に関するようなご質問には答えられません。必要でしたら裏面に続けてお書きください)
